



鷹野雅生 議会速報

GASHIN

Vol.24 2021.12

〒614-8011 京都府八幡市八幡垣内山 47
Tel 075-981-2496 / fax 075-981-5896

この号の内容

【観光関連】

- 1 はじめに
- 2 コロナの影響
- 3 アフターコロナ
- 4 八幡未来いきいきプロジェクト
- 5 まちづくりの推進
- 6 観光イベント
- 7 健(幸)康なまち-
- 8 周遊バスの運行-
- 9 健康と観光

はじめに

皆さん、こんにちは。八幡未来クラブ鷹野雅生です。

まずは、全体として、行政が対応される基本的な課題と対応される基本方針についてお伺いいたします。

その後に1問ずつお伺いさせていただきますし、ばらくの間お付き合いをよろしくお願いいたします。

それでは、通告に従い質問をさせていただきます。

"GASHINとは"

GASHINの心は鷹野雅生の雅を使い、私のいち早いお知らせの「信」であり「真」を述べ、私の「心」を語らせていただきたいと願っております。

コロナの影響

まず、新型コロナウイルス感染症の対応、影響についてお尋ねします。
かれこれ2年に及ぶコロナ対応で、日本中が大きな影響を受けてまいりました。
緊急事態宣言がようやく解除され、それに伴う飲食店業界への様々な要請も解除されました。
ようやくふだんの日常生活、経済活動に戻ってきています。
どうか、このような状態が続き、言われている第6波が来ないことを願っているところです。
一連のコロナでは、業界としては飲食業、観光業が様々な打撃を被っています。
ところが、業界としてくれない業種が存在し、支援の対象からも外されて打撃を受けている人も
少なくないと言われています。
このことを認識した上で伺います。



経済活動が影響している業界の把握について

本市としても、行政の立場で、どの業界がどんな打撃を受けているのか、
周辺都市と比較し、打撃の多いところはどの分野なのかといった把握を
されているのか、伺います。



コロナの影響が長引き、打撃の度合いも業界により異なっているため一概
には申し上げられませんが、度重なる時短要請等で飲食業界並びにその
関連業界やバス、タクシー等の交通関連業界が被っている打撃は長期にわ
たっていると認識しております。

最近になり、市内事業者から伺うところでは、製造業において、原材料の調
達難からの影響が大きいということで、これらは周辺都市同様の傾向と考
えております。本市で特徴的なところでは、石清水八幡宮をはじめとする社
寺において正月等の参拝者の激減により影響を受けていると伺っております。



一連のコロナ対応で一番苦労された点などについて

長引くコロナによって、生活様式から仕事の進め方、学校の授業の進め方
などにも影響が出ています。マスクは生活必需品となり、電車に乗っても、
全員マスクをして無言です。外の景色を見る人もほとんどいません。
3密を避けてソーシャルディスタンスを取りましょうが、生活の基本になっ
ていますから、人と人とのコミュニケーションの取り方がどうなっていくのか、ひ
そかに案じているところでもあります。



新型コロナウイルス感染症の対応で苦労した点につきましては、感染状況
やワクチン接種に関する最新情報の発信についてでございます。
日々状況が変化中、市ホームページや全戸配布などで情報発信を行っ
ておりますが、世代によって情報を得る方法が大きく異なり、全世代に情報
を伝えることの難しさを感じております。



前向きなコロナの捉え方について

物事にはプラス面とマイナス面があって、マイナス面が 10 とすると、プラス面も 10 あると言われます。ですから、コロナで受けたマイナス面は、生活様式、仕事の進め方、学校の授業、様々報告がありますが、東京や大都市でなくても仕事はできる、地方でいい、自宅でもできるとなれば、本市の場合は大阪にも京都にも近いし、交通の便もいいし、地方の時代への第一歩として捉えることも可能です。

本市の場合は、行政の立場で、コロナの影響のマイナス面をこのようにしてプラスに変えた。あるいはこの現象をプラスと見ていることにしたといったことがあれば教えてください。



コロナの影響の捉え方につきましては、リモートワークの普及や外出自粛が続いたことで、今まで以上に自身の健康について関心を持つ層が増えているのではないかと考えております。運動を始めたり、食生活を見直したりするよいタイミングであるとは思いますが、市としても、健康づくり施策を活用していただけるよう周知してまいりたいと考えております。



アフターコロナ 健康面での取り組みについて

アフターコロナの課題として取り組まれておられる事例があるれば教えてください。



アフターコロナにおける課題は、昨年 10 月に実施いたしました健康まちづくり調査の結果から、年代に限らずコロナ前と比較して直接人と会って対応する機会が減少し、そのことによって物忘れが増加するなど認知機能が低下している状況がございます。

市といたしましても、感染症対策を万全にした上で運動教室など人が集まって参加する事業を引き続き実施していくとともに、直接会って会話をする重要性を周知してまいりたいと考えております。

今日私がお願いしたいことは、アフターコロナには今取り組んでいただいている健康都市八幡を大きく掲げて、一層取組を進めていただきたいと願っています。これまでも、市議会の質問を通して健康なまちづくりについて質問させていただいた1人だと思っておりますが、個々の市民自らの意識で行う健康づくりも大切であり、行政が積極的に「提案する」「支援する」「指導もする」といった取組も重要で、市として取組を進めていただいております「やわた未来いきいき健幸プロジェクト」もタイムリーな良い取り組みです。

そこでお伺いします。

やわた未来いきいき 健幸プロジェクト



「やわた未来いきいき健幸プロジェクト」の現状、進捗状況や事業の課題について。

実施しておられる施策や行政サービスなどを教えてください。



やわた未来いきいき健幸プロジェクトの進捗状況等につきましては、現在開始3年目を迎え、約 3,100 人がご参加を頂いている状況でございます。参加者の参加前後の歩数を比較しますと、約 2,000 歩増加しておりますが、参加者によっては取組方に大きな差があり、歩数があまり伸びていない層に対してのアプローチが必要と考えております。

また、今後生じる課題といたしましては、年々参加者を増やしていく計画ですが新規参加者の確保が困難となることが予想されますため、事業周知方法などについて検討してまいりたいと考えております。



「八幡市健幸マルシェまちウォーク」について

11 月 17 日に行われた八幡市健幸マルシェまちウォークの成果報告をお聞かせ下さい。



八幡市健幸マルシェ、まちウォークの成果報告につきましては、平日にもかかわらず約 300 人にご参加を頂き、ウォーキングやヨガなどの健康づくりに参加していただきました。新型コロナウイルス感染症対策として全ての企画を屋外で実施いたしましたが、マスクを着用するなど基本的な感染症対策を行った参加者同士の交流の場となり、コロナ禍で健康づくりに励むきっかけをつくることができたと考えております。

健康なまちとは、データで見ることできますが、私の具体的なイメージでは、まちの中に人がよく出ているといったまちでしょうか。表情豊かに、子どもから高齢者まで多世代の方が同じ空間で楽しそうに過ごしている、そんなまちを思い浮かべます。

まちづくりの推進



「健康なまち」のイメージについて

高齢者が出歩くまちとはどんなまちなのか。みんなで考えていけばいいことであると思いますが、例えば行きたいところがある、見たいものがあるというところも重要な要素であると思います。

将来、八幡市が今以上に健康なまちになっていくためには、このようにまずは健康なまちをイメージすることが大切なことではないでしょうか。市としての健康なまちの具体的なイメージをお聞かせください。



本市の健康なまちのイメージは、第5次八幡市総合計画の目指す姿としても掲げております、市民の誰もが健康に関心を持ち、地域のつながりと自然に健康づくりが進むまちの中で生き生きと幸せを感じながら健康寿命が延びている状態をイメージとして描いております。

先ほど、子どもから高齢者までが楽しそうに過ごせるまちを健康なまちのイメージとして描いていると申し上げましたが、このようなまちを築いていくためには、例えば子どものことであれば教育委員会と連携を取って取組を進めることが必要になると思います。

健康なまちづくりの推進に向けて、庁内の連携部署でイメージを共有し、庁内で連携してつくり上げていっていただくよう要望します。

健康なまちのイメージにある子どもから高齢者までという範囲には、もちろん20代、30代などの若年層も含まれます。これらの若い世代の多くは、自身の健康に何も心配がなく、歩く必要性もあまり感じることなく生活しているのではないかと推測されます。例えばこれらの世代において、友人同士、あるいは子どもを連れて家族でまちを歩く人が多くなるとどうでしょうか。活気がある健康なまちとの印象を持つ方がほとんどではないでしょうか。



若い世代への取り組みについて

若い世代が八幡市のまちを歩きたくなるような取り組みがありましたら教えてください



若い世代がまちを歩きたくなる取組でございますが、都市整備の観点では、高齢者はもとよりベビーカーをご利用の子育て世代等にも歩きやすい歩道整備を目指して、歩道の段差解消や歩道未設置区間の整備などバリアフリー化を進めているところでございます。

また、昨年度は京都府の子育てに優しいまちづくりモデル事業交付金を活用し、さくら近隣公園にて雲梯などの遊具の設置、こども動物園の改修など地域の交流拠点の整備を行ったところでございます。

健康の観点では、若い世代と親和性の高いICTを有効に活用したやわた未来いきいき健幸プロジェクトを引き続き推進してまいります。

今までお伝えしてきたとおり、まちで歩く人が多くなることが健康なまちにつながり、またそのことはまちのイメージアップにもつながると思います。そのためには、つつい歩いてしまう、出かけてしまうような仕掛けが必要になってきます。

少し視点が変わりますが、例えば観光のイベントとして、11月20日、21日に秋の文化財一斉公開がありました。社寺など9か所をめぐるイベントです。同日開催の竹あかりのタベも素晴らしいイベントでした。本市だからこそ企画し、実現できたイベントだと思います。チラシにも書かれていましたが、エジソンと竹のゆかりのまちから送る新しい夜のおもてなしとありましたが、まさにそのとおりでした。おいしいスイーツも用意されていて、秋の文化財一斉公開にも併せ周遊時空バスが運行されていました。

私も参加して、素晴らしい企画だと感動した1人です。

多くの方が八幡市のまちを歩いておられました。市民であるのか、他市から観光で訪れた方であるのかの違いはありますが、歩いてしまう、出かけてしまうような仕掛けの1つとして参考にしてみるのも容易なではないかと考えています。

そこでお伺いします。



秋の文化財一斉公開 竹あかりのタベについて

1月20日、21日に行われました秋の文化財一斉公開、竹あかりのタベについて参加者は歩いてこられたのか、バスに乗ってこられたのか。

9か所の周遊はどんな方法で回られたのか。

どんな方法で回られた方が多かったのか。参加者の移動方法の状況と、それについて課題を教えてください。



観光イベントの来場方法についてのご質問にお答え申し上げます。

まず、文化財一斉公開では来場方法の調査は行っておりませんが、駅前から東高野街道沿いは徒歩移動が多く見られました。

流れ橋方面への移動方法は通常レンタサイクルか自動車ですが、今回は周遊時空バスで移動された方も多く、酒住宅の見学者が例年より増加したと聞いております。

一斉公開に併せ運行した周遊時空バスは、両日合わせて延べ563人に利用いただいております。各会場を結ぶ移動手段として有効であったと考えております。

竹灯りイベントでは、両日合わせて1,723人の来場者のうち、その半数程度が自動車で、付近住民の来場が多かったため徒歩も多く、その後、バス自転車は少数でございました。

移動方法の課題といたしましては、周遊バス利用者のアンケートからは路線バスは複雑で表示も分かりにくく、利用しにくいとの声があり、徒歩圏外への移動をより分かりやすく案内することと考えております。

健(幸)康なまち

今回は、アフターコロナに視点を置いて何点かお尋ねいたしました。それぞれにご丁寧なご答弁を頂き、ありがとうございました。まずは、新型コロナウイルス感染症の対策については、堀口市長をはじめ行政の皆様、担当の健康部の皆様には、長きにわたって感染症対策に取り組んで頂いていることに感謝しています。

ありがとうございます。

コロナもそろそろ終息かと思いかけたところに、新型のオミクロン株が出てまいりましたので、感染防止対策はこれからもというより、これまで以上に感染予防対策を取り組みながら、普通の日常生活が送れるようにしていかなければなりません。

引き続きワクチン接種3回目がありますけども、頑張ってくださいますようによろしく願いいたします。

次に、健康なまちの具体的なイメージについて伺います。

人生100歳時代という言葉も聞かれます。全市を挙げて健康長寿に取り組んでいけば、高齢者の住みよいまちの成果は一般市民にもつながってまいります。

先ほど、市としての健康なまちの具体的なイメージを聞かせていただきました。

私のイメージも述べさせていただきました。

八幡のまちは、出歩きたいまちなのか。足りないところがあるとすれば、どんなものが足りないのか。まずはイメージすることが大切です。

「やわた未来いきいき健幸プロジェクト」の実施など、八幡市は先進的に取り組んでいる自治体であると考えています。しかしながら、健康なまちであるかと言われると、まだそのイメージは達していないと私は思います。



健康なまち・まちの中に人がよく出るまちについて

八幡市はスマートウェルネスシティ首長研究会に加盟し、ほかの自治体や地域における先進的な取組などを研究されておりますが、これらの研究の内容も含めて、八幡市が今以上に健康なまち、まちの中に人がよく出ているまちになるためには、どのようなことが必要であるのでしょうか。お考えをお聞かせください。



健康なまち、人がよく出歩いているまちになるためには、様々な要素の掛け合わせが必要であると考えております。やわた未来いきいき健幸プロジェクトのような、歩くことを習慣化するためのツールだけではなく、例えば町なかの芝生の公園など魅力的な目的地や安全に歩ける場所があることにより、今まで以上に人が歩くまちになっていくと考えております。

健康なまちに少しでも近づけるよう研究に努めてまいります。

周遊バスの運行

歩きたくなる取組についてですが、今まで以上に人が歩くまちになっていくために、町なかの芝生の公園など取組を進めていただきたいと思います。

歩きたくなるということは、観光の視点から考えても大切です。歩きたくなるまちを目指していけば、観光客は自然に増えていきます。市民は健康増進につながっていきます。11月20日、21日に実施されました秋の文化財一斉公開「明かりの夕べ」もそうですし、やわた未来いきいき健幸プロジェクト、八幡市健幸マルシェまちウォークも、歩く楽しさにも視点を定めていると見ていました。

そこでお伺いいたします。



周遊バスの運行について

先ほどの答弁にもありましたように、明らかに周遊時空バスの効果が出ています。幸い八幡市内には神社仏閣だけに留まらず、観光客に訪れる観光地がたくさんあります。

歩きたい場所までスムーズに移動できるために、観光地を結ぶことにもなるバスの運行計画が必要だと考えています。

桜の時期、秋の時期、特に秋の文化財一斉公開の時期に合わせて、周遊バスを走らせてはどうでしょうか。



周遊バスの運行についてですが、今回の観光庁補助を受けた実証事業において、観光地を周遊する場所に一定の需要があると確認ができたと考えております。

今回は無料でしたが、有料でも利用したいとの声も一部頂いており、今後は費用対効果も意識しながら、特に集客の多いイベント等に合わせたバスの運行について検討していきたいと考えております。

周遊バスの運行については各会場を結ぶ移動手段として有効であります。歩きたい場所までスムーズに移動できるために、ぜひとも周遊バスを走らせてほしいと思います。特に秋の文化財一斉公開の時期に合わせて走らせていただきますようによりしくお願い申し上げます。

健康づくり

健康関心層の参加

アイデアあふれる方策

健康と観光



健康づくりの視点において生かせるようなことについて

11月17日に行われた八幡市健幸マルシェまちウォークにおける課題と、11月の20日、21日に行われた竹あかりの夕べ、文化財一斉公開、これらのイベントにつきまして、市民の健康づくりの視点において、何か生かせるようなことがあれば教えてください。



健康マルシェまちウォークにおける課題は、いわゆる健康無関心層への働きかけという点で課題があると考えております。今回のイベントにおきましても、地元野菜の販売などの企画を盛り込みましたが、健康部関心層の参加は少なかったと分析しており、そういった層が多く参加するようイベントにできるよう、企画内容や周知方法等について検討を重ねてまいりたいと考えております。一方、文化財一斉公開では、徒歩と自転車でそれぞれモデルルートを案内しておりますが、主には市外に在住の方が本市に観光に来られることを想定しております。また、竹灯りも同様でございます。もちろん市民の皆様にも本市の文化財など観光資源に関心を持っていただき、歩いて回っていただくことで健康づくりの一助になることができると考えております。

観光は市外の住民を呼び込むというところもありますが、健康も観光もつながるところがあります。まち歩きが基本だと思います。観光に自然と運動、食事などを組み合わせることによって、市民の健康増進や観光客の誘致を図ることもできると考えております。行政ですから、部署によって業務が違ってきますが、各部署から健康で住みやすいまちづくりの共通の目標に向かって、それぞれの部署が、アイデアあふれる方策を持ち寄ることで、望ましい方策が必ず出てくると思います。



今後について

今後、健康、観光が一緒になったイベントなど実施されないのでしょうかお伺いいたします。



観光客の増加によるにぎわいが、結果として市民が外出したくなる環境となることは思いますけれども、観光は主に市外の在住者を、健康は主に市民を対象としておりますことから、両者が参加する対象者が複数となるイベントを成功させることは難しいと考えております。